

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	地域社会研究
教科・領域等	学校設定科目
活動学年等	1 学年（全員）
ねらい	地域を素材として、多様な課題を理解させるとともに、科学的探究の各段階の手法を身に付けさせながら、批判的・科学的思考力、主体的に研究に取り組む態度、プレゼンテーション力や対話力を中心としたコミュニケーション力を育成する。協働型学習プログラムの中核を担い、東日本大震災復興プログラムの一部を担う授業である。高校で探究活動を行う基礎知識・技術を身に付ける。

【実践内容】

〔志教育の視点〕

海に関する多様な地域課題を理解し、科学的探究の各段階の手法を身に付けるとともに、批判的・科学的思考力、プレゼンテーション等で発揮するコミュニケーション力を身に付けながら、SDGsにある「14 海の豊かさを守ろう」と震災復興からの「11 住み続けられるまちづくりを」を軸に、地域課題を解決しようとする態度を身に付ける。

〔活動内容〕

1 地域理解講座について

5月23日（木）、29日（水）の両日に、身のまわりの海に関する知識を深める「地域理解講座」を実施した。地域を舞台に活躍する5名の講師として、「海と人間」株式会社臼福本店代表取締役の臼井壮太郎氏、「海と産業」気仙沼商工会議所会頭の菅原昭彦氏、「海の文化」リアス・アーク美術館館長の山内宏康氏、「三陸の自然」気仙沼水産試験場総括研究員の柴久喜光朗氏氏、「海と防災」気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館館長の及川淳之助氏をお迎えし、気仙沼の身近な未知なるものに気付き、地域とのつながりをつくり、社会や未来に目を向ける探究テーマ設定の種探しを進めた。



「海と文化」分野の講演会

この講演後に、夏休みの間までに様々なインプット講座で探究スキルの獲得・深化を図り、夏休み明けからは興味関心がある分野でグループ研究をスタートさせた。

2 震災・防災学習について

（防災主任の防災講話・ハザードマップ研修、大学教員の震災防災講演会・ワークショップ、防災士による震災伝承講座 等）

5月22日（水）に、本校の防災主任である長根彰範教諭より防災講話・ハザードマップ研修を実施した。防災の意義、地域の災害の危険性について理解し、安全な生活を実現するために必要な行動力を身につけようとした。

また、7月10日（水）に、東北大学災害科学国際研究所の准教授佐藤翔輔先生を招き、震災・防災意識の向上や風化防止に必要なことは、震災を追体験することであるとアドバイスを受けた。ワークショップから、震災伝承や防災・減災に関する大学研究者の科学的視点で命を守るための思考力・行動力を伸ばした。

さらに、11月6日（水）に、防災士の資格も保有して県内や全国各地で講演経験も豊富な本校の岸貴司主幹教諭から、能登半島地震被災地での学校復旧ボランティア等の経験を踏まえて、震



「研究者」による防災ワークショップ

災を伝承していく意義について学んだ。生徒は、研究で伝える内容はまとめる際のデータの比較の仕方によって大きく印象が変わることを感じ、震災伝承からコミュニケーション力を見直すきっかけとなった。

3 中間発表会

11月13日（水）、1学年「地域社会研究」の中間発表会を開催し、5領域で進めてきたグループ研究について発表した。探究活動を支援してくれているアドバイザーとして気仙沼学びの産官学コンソーシアムの加藤拓馬氏、合同会社 colere の齋藤美和氏等を招き、様々な角度から助言をいただいた。また、2学年の先輩生徒からの質疑応答やアドバイスを受けて探究スケジュールを見直した。今後に向けて、校内で対話によって探究の質を深め、生徒同士のやり取りから主体的、対話的に活動を進めていけるように、先輩後輩の縦のつながりを積み重ねたい。



質疑応答でブラッシュアップ

4 フィールドワーク

10月10日（木）に市内中心で39事業所（昨年度28）、12月4日（水）、13日（金）、18日（水）に市内・大学各所に34機関（昨年度22）を訪問するフィールドワークを実施した。今年度は、校内教員による訪問先への打診に力を入れ、実施候補日を複数設定し、生徒の探究活動にマッチする訪問先の調整を進めた。管内企業の方々と大学等の専門家から、直接情報収集して身のまわりの疑問を突きつめる貴重な機会となった。



市内飲食店でのインタビュー

このフィールドワークでは、生徒がじっくり自分で考えて判断し、他者の協力を得ることで社会とつながり、探究活動からキャリアについて考えるきっかけにもなっている。少しずつでも数多くの自己選択・自己決定の機会を持つことで、生徒たちが主体的に成長していくことができる。

5 全体発表会

1月25日（土）に1学年「地域社会研究」および2学年「課題研究」の全体発表会を開催した。1学年「地域社会研究」では、「海」「まちづくり」を軸とする52テーマについて、生徒は堂々とプレゼンテーションを行った。生徒たちは、自分の興味関心がある多岐にわたるテーマを突きつめ、「うまくいくこと」と「うまくいかないこと」を繰り返しながら、自分の在り方生き方について考えてきた。高校3年間の探究活動を通じて、「高校でこんなことを考えた・やってみた」を、生徒自身が「次の大学・専門・職場でこれをやりたい！」につなげられるように、「将来、社会・世界でこれをやる！」「だから、大学・専門・職場でこれを学び、自分でこんなこともやっていきたい！」につなげられるように、より質の高いテーマ設定や課題解決に向かう探究活動を進めていってほしいと感じている。



全体発表会でのまとめ

〔生徒の未来に向けて〕

この地域社会研究から、未来社会への貢献意欲や、地元地域への郷土愛を育むことができている。これは、本校の志教育の理念である、「地域を超えたリーダー」、「地域のリーダー」の育成につながっている。今後も新たな挑戦を進めて改善、発展を図りながら、探究活動に取り組んでいきたい。